

東京海洋大学(学部入学定員:450人、大学院入学定員:248人)

[取組学部・研究科等: ○海洋科学部(275人)、海洋工学部(175人)、

海洋科学技術研究科[博士前期課程]海洋生命科学専攻(47人)、食機能保全科学専攻(30人)、海洋環境保全学専攻(50人)、海洋管理政策学専攻(18人) [博士後期課程]応用生命科学専攻(19人)、応用環境システム学専攻(21人)]

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

今後の日本経済を成長軌道に乗せるためには、新興アジア経済との連携が不可欠である。このような新たなグローバル環境において、アジアの人々の生活により深く入り込み、現地のニーズを開拓し、海洋(自然)との共生に対する深い思慮を持ちつつ、産業プランを企画し、それを戦略的思考で実現する能力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

学部教育及び大学院教育において以下の抜本的教育改革を図る。大きな改革の柱は以下3点である。

- 1) TOEICスコア600点の学部4年次への進級要件化(大学として数値で示す着地点の明確化)
- 2) 学部3年次での海外派遣型キャリア演習の新設(グローバル視点での自己キャリア啓発と異文化交流活動、SEND)
- 3) 大学院前期課程授業の完全英語化(+英語による討論型授業)

■ 教育課程の国際通用性の向上

○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

国際的に通用する学生の学力醸成に責任を持つ大学として、①双方向型授業やアクティブ・ラーニング(宿題を課す講義の促進、教員が一方的に話す授業の削減)、②GPAによる厳格な成績評価とその活用、③国際的な留学生の互換性確保のために不可欠なコースナンバリング、④異文化理解を目指した対話型講義の開設、⑤大学院博士前期課程授業の討論型授業への切り替え、などの教育改革に取り組む。

○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

年数回の学内グローバル改革点検セミナーを開催し、これらをユーストリームやユーチューブを通じて全国の大学へ配信するとともに、セミナーには学外者もオープン参加とし、本学のグローバル人材育成の取り組みを広く全国の大学へ発信する。(開催は毎回、関連大学へのメールと本学のグローバル人材育成改革専用のホームページを通じて周知)。

○ 事務体制のグローバル化

事務職員の英語研修(e-ラーニングシステムの活用や事務職員専門のTOEIC上級クラスを開講)を通じてTOEIC800点以上の事務職員の育成を推進する。さらに、重点交流機関や大学に学内の事務職員を派遣して、国際交流事務に携わる事務職員の育成を加速する。

■ グローバル人材として求められる能力の育成



1) TOEICスコア600点の学部4年次への進級要件化

TOEICテストで企業が求める国際人としての最低のスコアを履修要件として課す(TOEIC600点を4年次進級要件に)。

2) 学部3年次での海外派遣型キャリア演習

アジアを中心とした日本との経済関係が密接に考えられる国々に1ヶ月間滞在させ、その国の産業や人々の暮らしを取材し、そこから自分の専門をどのように生かし現地の産業に寄与できるかについて帰国レポートを提出させる。

3) 大学院前博士期課程授業の完全英語化と討論型授業への切り替え

博士前期課程ではすべての授業で英語化し、また、それらを討論型授業に切り替える。大学院へ進むグローバル人材は、学部で培った語学基礎力や異文化理解力をベースに、専門領域において国際的にリーダーシップがとれるだけの高度な英語スキルと論理的な自己表現力、討論力が必要になる。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

TOEFL、英検、TOEIC等の一定スコア以上の取得者や留学経験者を適切に評価するための選抜基準を盛り込んだ入試を導入する。

○ 効果的な語学教育及び教育体制

自律的にレベルに合った学習ができるe-ラーニングシステムや自習室の整備、TOEIC学習専門の統括英語教員や非常勤英語教員を雇用して、学生が教室の内外でTOEIC英語を学習できる教育環境の整備を抜本的に行う。

■ 教員のグローバル教育力の向上

○ 教育体制のグローバル化

外国人教員の採用を促進し、採用された外国人教員の講義は学部、大学院を問わず、英語開講とする。

○ グローバル教育力向上のための取組

海外の大学で豊富な教育経験を有する教授の招聘、グローバル化教員(英語教育へのモチベーション支援教員、授業の英語化移行教員、留学生受け入れ教員)へのインセンティブ、教員の教育へかける時間づくり改革を行う。

■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

○ 動機付けや留学を促進するための取組

学内に国際化推進室を設置、留学コーディネーターとして特任教授を雇用し、海外留学先の開拓や斡旋を行う。また、留学生と日本人学生との交流のコミュニティスペースを推進室が積極的に企画、提供する。

○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

事務局に新たにグローバル支援担当職を設置し、留学先大学とのきめ細かい通信、帰国後の学業生活についてのサポート体制を推進する。

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

【学部】

1) 英語力(学士レベルで要求される英語基礎力)

①TOEIC 600点を3年次から4年次への進級要件とする。

②自分が言いたいことを英語で表現する力の育成。少人数教育により、英語による発信能力を留学するために必要なレベルまで育成する。(①をクリアした学生を対象に選択開講)

2) グローバル視点での自己キャリア啓発と異文化交流(学部3年次での海外派遣型キャリア演習を開設)

【大学院(博士前期課程)】

1) 博士前期課程の授業科目を完全英語化し、また、それらを討論型授業に切り替えることにより、英語を用いて自分の言葉で自分の考えを発信できる人材育成の完成を目指す。

【学部・大学院(博士前期、後期課程)共通プログラム】

1) 異文化理解の深化

教員、日本人学生、および留学生(大学院生、学部生問わず)が参加し、互いに意見を交わしながら進める「対話型講義」を本格導入する。

2) 中国語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語の強化

現地社会に深く入り込むタフなグローバル人材にとっては、英語力だけでは不十分であることから、本学の守備範囲として特に重要なエリアと考える中国、タイ、ベトナム、インドネシアの4か国について、学部、大学院共通に常時開講の語学クラスを新設し、これらの言語文化リテラシーを強化する。

本構想において実現する達成目標

| 全学 | | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | |
|--------------------------------|-------------------|------------|------|---------|----------|-----------|-----------|------|
| 外国語力スタンダードを満たす学生数 (TOEIC 700点) | | | | 12人 | 22人 | 43人 | 85人 | |
| うち海外留学未経験者数 (A) | | | | 3人 | 12人 | 0人 | 22人 | |
| 海外留学経験者数 (B) | | 3人 | 1人 | 11人 | 13人 | 54人 | 66人 | |
| 卒業[予定]者数 (C) | | 450人 | 450人 | 450人 | 450人 | 450人 | 450人 | |
| 比率 ((A+B)/C) | | | | 3.1% | 5.6% | 12.0% | 19.6% | |
| 海洋科学部 | 4年次進級時の外国語力スタンダード | TOEIC 600点 | | 50人(43) | 100人(92) | 200人(153) | 275人(217) | |
| | 卒業時の外国語力スタンダード | TOEIC 700点 | | 10人(3) | 20人(12) | 40人(0) | 80人(22) | |
| | 海外留学経験者数 | | 2人 | 1人 | 7人 | 8人 | 47人 | 58人 |
| | | 3カ月未満 | 0人 | 0人 | 3人 | 3人 | 40人 | 50人 |
| | | 3カ月～1年 | 2人 | 1人 | 4人 | 5人 | 7人 | 8人 |
| | | 1年超 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 卒業[予定]者数 | | 275人 | 275人 | 275人 | 275人 | 275人 | 275人 | |
| 海洋工学部 | 卒業時の外国語力スタンダード | TOEIC 700点 | | 2人(0) | 2人(0) | 3人(0) | 5人(0) | |
| | 海外留学経験者数 | | 1人 | 0人 | 4人 | 5人 | 7人 | 8人 |
| | | 3カ月未満 | 0人 | 0人 | 2人 | 3人 | 4人 | 5人 |
| | | 3カ月～1年 | 1人 | 0人 | 2人 | 2人 | 3人 | 3人 |
| | | 1年超 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 卒業[予定]者数 | | 175人 | 175人 | 175人 | 175人 | 175人 | 175人 |

※1)「外国語力スタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語力スタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。